

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和2年度1月

○ 概要

- (1) 令和3年1月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は5,961億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲4.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,147円（伸び率+10.1%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,472億円（伸び率▲8.3%）薬剤料が4,476億円（伸び率▲2.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が947億円（伸び率+10.5%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料6,098円（伸び率+11.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.82種類（伸び率+0.1%）、28.5日（伸び率+15.5%）、76円（伸び率▲3.6%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,582億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲115億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の632億円（伸び幅+26億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+34億円（総額393億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,582 億円 (▲115 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(632 億円)	21 循環器官用薬 (625 億円)	11 中枢神経系用薬 (575 億円)
0歳以上 5歳未満	15.6 億円 (▲8.4 億円)	44 アレルギー用薬 (6.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)
5歳以上 15歳未満	68.3 億円 (▲9.7 億円)	44 アレルギー用薬 (25.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (21.6 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.9 億円)
15歳以上 65歳未満	1,283 億円 (▲16 億円)	11 中枢神経系用薬 (271 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(242 億円)	21 循環器官用薬 (191 億円)
65歳以上 75歳未満	862 億円 (▲13 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(182 億円)	21 循環器官用薬 (173 億円)	42 腫瘍用薬 (126 億円)
75歳以上	1,353 億円 (▲68 億円)	21 循環器官用薬 (257 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(202 億円)	11 中枢神経系用薬 (190 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,147円（伸び率+10.1%）で、最も高かったのは高知県（12,185円（伸び率+10.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,345円（伸び率+7.6%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは富山県（伸び率+14.8%）、最も低かったのは秋田県（伸び率+6.3%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.0 %	+1.8 %
薬剤料ベース	21.2 %	+2.6 %
後発品調剤率	77.9 %	+1.5 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.9 %	+3.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+10.5 %	+27.3 % (100歳以上)	▲19.3 % (5歳以上 10歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.2 %	30.4 % (100歳以上)	11.7 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.0 %	86.5 % (100歳以上)	75.3 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	821 億円 (+77 億円)	21 循環器官用薬 (246 億円)	11 中枢神経系用薬 (135 億円)	23 消化器官用薬 (101 億円)
0歳以上 5歳未満	5.1 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (2.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3 億円)	61 抗生物質製剤 (0.4 億円)
5歳以上 15歳未満	13.0 億円 (▲3.1 億円)	44 アレルギー用薬 (8.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1 億円)
15歳以上 65歳未満	273 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (71 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	44 アレルギー用薬 (35 億円)
65歳以上 75歳未満	199 億円 (+22 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)
75歳以上	330 億円 (+46 億円)	21 循環器官用薬 (100 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,612 円	2,059 円(北海道)	1,322 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+27.1%	+32.8 % (栃木県)	+23.4 % (三重県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.0 %	89.3 % (沖縄県)	78.0 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.2 %	25.0 % (鹿児島県)	18.1 % (京都府)
後発医薬品調剤率	77.9 %	84.2 % (沖縄県)	73.1 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.9 %	66.6 % (沖縄県)	54.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。